

秘

昭和四年度

作業經過

昭和五年五月

海軍燃料廠研究部

昭和四年度作業經過目次

1. 一般經過	---	---	---	---	1
2. 昭和四年度研究部試驗檢查並實驗成績調	---	---	---	---	3
(1) 一般分析試驗に關する統計	---	---	---	---	3
(2) 石炭及煉炭試驗成績概要調	---	---	---	---	4
(3) 石炭低溫乾溜實驗	---	---	---	---	5
3. 豫算	---	---	---	---	5
(1) 昭和四年度研究部豫算決算調	---	---	---	---	5
(2) 全上 出張旅費調	---	---	---	---	6
(3) 全上 圖書費調	---	---	---	---	7
(4) 全上 建造物補修費調	---	---	---	---	7
(5) 全上 各科別人件費調	---	---	---	---	8
(6) 雇員及職工平均給料調	---	---	---	---	9
(7) 昭和四年度購入器具明細表	---	---	---	---	10
(8) 全 各科別消耗品並藥品使用高調	---	---	---	---	12
(9) 全 各科別消耗器具破損高調	---	---	---	---	12
(10) 全 研究部廠内委託製作並修理費調	---	---	---	---	12
(11) 全 印刷所作業年報	---	---	---	---	14
4. 昭和四年度研究實驗報告類發行	---	---	---	---	15
(1) 研究報告	---	---	---	---	15
(2) 實驗報告	---	---	---	---	15
(3) 研究雜報	---	---	---	---	15
(4) 講演	---	---	---	---	16
(5) 調查報告	---	---	---	---	16
(6) 石炭液化法報告	---	---	---	---	16

17. 其の他	17
5. 昭和四年度研究部配員並異動調	18
(1) 研究部配員表	18
(2) 判任官以上異動調	19
(3) 雇員以下異動調	23
6. 研究部雇員以下出身学校並海陸軍出身者調	27
7. 昭和四年度研究部職工勤務関係調	27
(1) 遷刻者調	27
(2) 公務員傷者調	27
(3) 病氣休業者調	28
(4) 事故休業者調	28
8. 昭和四年度研究部講演並雜誌會調	28
(1) 部内講演	28
(2) 部外講演	29
(3) 雜誌會	30
9. 昭和四年度研究部主要行事調	31

(目次終)

昭和四年度作業經過

1. 經過概要

昭和四年度作業は一般に順當に進捗セリ

本年度中特記すべきことは當部に於ける定員増加と石炭液化實驗なりとす

定員の増加は多年晩望せる所なりしが本年四月一日附を以て技師ニを五に増置せられ同時に當分の間武官一名の臨時増置を認めらる 尚奏任待遇囑託二名配属せらるるに至れり

定員の増加に連れ任官せるもの及兵站佐在保軍需部々員として轉出せる者又兵學校教官の兼務技師に任ぜられたるもの等あり 尚年末には廣工廠所兼當廠研究部々員にして常時當廠に勤務する武官一名配属せられたり研究部としては未曾有の人事異動なりしなり

前記異動の外本年度に於ては研究擔任者補充養成の意味に於て帝國大學卒業生二 高工卒業生三を採用し陣容を新にせり

石炭液化實驗は昨年度に於て完成せる小型加圧釜を使用し先づ石炭液化の諸反應の條件に就て研究し(別表實驗研究 報告類の欄参照) 他方石炭液化用原料及生成物の運行に関し物理的の諸實驗を行ひ以て半工業的實驗裝置の設計に備へたり半工業的實驗裝置は兵工廠其の他の盡力により本年度に於て主體の工事略完了セリ

石炭液化實驗に要する經費は三箇年三十萬圓の豫定を

りしか實驗裝置に豫想外の經費を要すること明となりしを以て更に三十万圓の追加を要求する事とせり

石炭を瓦斯化して合成燃料を製造する研究は着々と進行し有望なる觸媒を得たるを以て明年度に於て半工業的實驗裝置により更に實驗を累ねんとす

上記以外の事項にして年度内に遂行せる主なる事項は

1. 燃焼の研究に一步を進むる意味に於て燃焼試験器を新に裝備し且研究に従事する者を増加せり
2. 京都帝國大學理学部に見習職工成業者を實習の爲三箇年間の豫定を以て派遣せり又夏期講習に従業員二名を約二週間同大學へ派遣せり
3. 潤滑油安定度試験法に就て海軍各工廠、軍需部従業員並部外石油業技術者に對し講習を行ひたり
4. 霞ヶ浦航空隊整備學生の燃料に関する講習を三日間行ひたり

5. 部外講演を別表の如く行ひたり

等にして相當に効果を收めたり

2 昭和四年度(皇五拜四日) 研究部 試験模査

(1) 一般分析試験に関する統計

種別 月別	石 炭		ピッチ		油 類 性 状	其の他 雜 件	計
	元素分析	工業分析	元素分析	工業分析			
四 月		7		15	7	84	113
五 月	5	28		20	13	162	228
六 月	39	24	2	17	9	125	216
七 月	51	32	15	17	46	255	416
八 月	3	35			11	118	167
九 月	12	38		4	12	145	211
十 月	31	46		13	16	235	341
十一月	16	23	2	13	9	174	237
十二月	23	30	3	16	8	175	255
一 月	20	36		9	5	150	220
二 月	5	17		3	12	79	116
三 月	2	26		1	9	68	106
計	207	342	22	128	157	1,770	2,626

(2) 石炭及煉炭試験成績概要調

種 別	回 数	100°Cにて石炭 1kgに付蒸気水 量平均 (kg)	灰及アリンカー 總量平均 (%)	發熱量 (kcal-7)	記 事
第一種煉炭(南卵型)	5	10.6	6.6	7,787	本廠生產品
第一種試製煉炭(〃)	4	10.7	6.1	8,051	
第一種煉炭(北角型)	12	10.3	7.0	7,705	
第一種試製煉炭(〃)	8	10.3	6.8	7,992	
第二種煉炭(東角型)	10	9.8	12.3	6,848	
第二種試製煉炭(〃)	1	10.8	7.0	7,753	
第二種煉炭(南卵型)	10	10.0	12.3	7,443	
第二種試製煉炭(〃)	6	9.5	12.1	7,449	
第一種煉炭(鋪印)	2	10.9	6.8	8,029	佐在保軍需部 依頼
川澄ヒッチ煉炭(第一種)(A)	1	8.6	11.0	7,203	川澄ヒッチ 煉炭製造株 式会社依頼
〃 (第二種) (D)	1	9.2	10.0	7,242	
〃 (第三種) (H)	1	8.6	9.9	6,939	
加工煉炭 (I2)	1	10.5	11.9	7,643	本廠生產品
試製煉炭 (R)	1	10.5	8.0	7,728	
東煉試製煉炭 (N1')	1	10.5	8.2	7,754	
〃 (N2')	1	10.5	8.1	7,813	
〃 (N1)	1	10.6	8.7	7,817	
〃 (N2)	1	10.7	8.9	7,841	
滿鐵委託煉炭	1	8.5	14.9	6,933	
第一種煉炭	1	10.4	6.9	7,760	佐在保軍需部 依頼
〃	1	10.3	5.9	7,672	橫濱製軍需部 依頼
加工煉炭	2	10.1	10.9	7,299	軍需支部依頼

(3) 石炭低溫乾溜實驗

乾溜炉制式	運轉 時数	使用原料		一晝夜平均 處理量 (kg)	一晝夜平均 タール收得 量 (kg)	記 事
		炭 名	總處理量 (kg)			
チッセン式	264	院坪炭	229.595	20.872	475	
〃	184	古城子炭	278.138	40.200	3,852	
グビッドソン式	240	新原炭	93.507	9.350	796	
〃	264	古城子炭	115.992	10.544	909	
〃	360	樞下炭	181.138	10.063	842	

3. 豫 算

(1) 昭和四年度研究部豫算決算調

科 目		全額(配付)予算	豫算使用高	豫算残高	記 事
廳 費	必要及技術圖書費	1,466,000	1,459,760	6,240	
旅 費	内國旅費(出張旅費)	2,040,450	2,040,450	0	
建造物 補修	新 營 費	1,936,000			
	修 繕 費	0	951,000	985,000	
器具機械補修		3,723,000	3,934,209	211,209	共通物品 277円51 10556.376 925購買 488円51
材 料 費		7,500,000	7,740,000	240,000	
職工人夫給		20,814,000	19,697,060	1,116,940	
動力及需品費		3,066,000	2,232,678	833,322	共通物品1600 円51に対し 1,382,960購買 共通物品4769円 51に対し3626 073購買
試 験 及 品	器具機械	28,910,000	34,472,883	5,562,883	
	消耗品	22,321,000	22,345,846	24,846	
	圖 書	5,000,000	4,044,680	955,320	赤字は技術 及研究費(同 内に於て使用 流用)
	計	56,231,000	60,863,409	4,632,409	

研究費	試験研究委託費	5,000 000	1,024 405	3,975 595	
	人 職工人夫	31,663 000	31,451 470	211 530	
	件 備給	28,512 000	19,336 120	9,175 880	
	費 慰労金	3,240 000	1,784 180	1,455 820	
	計	63,415 000	52,571 770	10,843 230	
	修理工場要求材料費	—	3,212 140	—	
	合計	124,646 000	117,671 724	6,974 276	
受託研究費	材料物品	214,000 000	209,750 638	4,249 362	共通物品258円 天引に於て203円 304円購買
	職工人夫	9,780 000	8,466 770	1,313 230	
	旅 費	4,000 000	1,840 990	2,159 010	
	報酬金	8,850 000	2,089 740	6,760 260	
	備給	6,850 000	5,934 580	915 420	本表以外 に修理工 場へ分割 すべきもの 5,000円あり
	雑件費	1,520 000	337 960	1,182 040	
	慰労金	0	0	0	
	合計	245,000 000	228,422 678	16,577 322	
總 計		410,191 450	384,149 559	26,041 891	

(2) 昭和四年度研究部出張旅費調

科目	使用別	高等官	判任官	雇員	職工	計
内國旅費		14,614 490	206 050	372 910	—	2,040 450
試験及研究費		—	—	—	223 460	223 460
受託研究費		1,688 990	—	152 000	—	1,840 990
部外旅費		456 930	109 190	—	—	566 120
計		3,607 410	315 240	524 910	223 460	4,671 020

備考、受託研究費支弁の高等官使用額中他部関係職員の旅費396円08を含む

(3) 昭和四年度圖書費調

科 目		金 額
廳 費	圖書及印刷費	382 350
	兵要及技術圖書費	1,459 760
試験及研究費	材料物品(圖書)	4,044 680
雜給及雜費	雜給及雜費(見習職工教育費)	248 990
計		6,135 780

内 譯

部 別	内外國雜誌	レバツフ ナンバ―	圖書費 (單行本)	製本費	器具費	消耗品費	計
研究部	1,805 38	749 76	2,488 04	666 45	1,349 32	389 42	7,448 37
小松教授	148 500		0				148 50
煉炭部	98 97		63 25				162 22
製油部	123 48		14 00				137 48
醫務部	103 22		130 50				233 72
會計部	9 00		83 34				92 34
副 官	0		69 35				69 35
養成所	0		248 99				248 99
計	2,288 55	749 76	3,097 47	666 45	1,349 32	389 42	8,540 97

(4) 昭和四年度研究部建造物補修費調

建 物 部	名 稱	種 別	科目	数 稱	代 價	竣工年月
財441 建144	水素発生所	模様替 修繕	建造物 補修	1ヶ所	335 000	昭和4-6-17
財442 建86	第一實驗場	"	"	"	131 000	"4-9-20
財443 建583	特種藥品庫	模様替 修繕	"	1棟	145 000	"4-10-28
財444 建554	"	"	"	"	145 000	"
財445 建657	便 所	模様替	"	"	195 000	"
財446 建112	合 計				951 000	

(5) 昭和四年度研究部各科別人件費調

科別	雇 員 給				職 工	
	本給	手当	慰勞金	計	本給	賞與加給
工 務	2,831.65	382.36	338.46	3,552.47	2,237.91	
印刷	708.00	127.36	80.32	915.68	2,353.71	
調査科	2,006.50	320.31	227.81	2,554.62	1,262.21	
研究科	一班	974.50	118.81	70.20	1,163.51	3,161.09
	二班	1,580.20	208.13	132.77	1,921.10	1,495.81
	三班	937.50	121.95	73.57	1,133.02	3,813.58
	昇進	672.00	98.23	76.27	846.50	4,466.71
実験科	一班	4,547.70	768.56	515.83	5,832.09	7,647.00
	二班	822.00	146.19	93.15	1,061.34	10,545.21
特定作業	1,749.19	217.58	175.80	2,142.57	1,215.04	
計	16,829.24	2,509.48	1,784.18	21,122.90	38,198.27	3,291,930
特別班	4,634.48	615.53	684.57	5,934.58	6,250.00	583,250
合計	21,463.72	3,125.01	2,468.75	27,057.48	44,448.27	3,875,180

科別	人 夫 給						人 夫
	勤務加給	特種加給	定期賞與	旅 費	外 費	解僱手当	
工 務							
印刷							
調査科							
研究科	一班						
	二班	(1,404.20)	(38,790)	(4,161.70)	(224.16)	(1,058.26)	26.60
	三班						27.30
	昇進						
実験科	一班						
	二班						
特定作業							
計	1,404.20	38,790	4,161.70	224.16	1,058.26	53.90	2,717.32
特別班	200.00	—	944.25	—	—	—	489.27
合計	1,604.20	38,790	5,105.95	224.16	1,058.26	53.90	3,206.59

備考. 括弧内の数字は細別不可能に付合計額を示す

(6) 雇員及職工平均給料調 (昭和五年三月三十一日調)

雇 員				職 工			
一人月額	員数	一人月額	員数	一人平均月額	一人日額	員数	平均賃銭
90.000	1	58.500	1		3.700	1	1.600
85.000	1	57.500	2		2.900	1	1.550
73.500	1	57.000	1		2.500	4	1.500
69.000	1	56.750	1		2.200	3	1.400
68.800	1	56.500	1		2.100	2	1.350
68.300	2	56.000	1	60.725	2.050	3	1.300
66.300	1	55.500	1		1.950	5	1.250
63.800	1	54.500	2		1.850	8	1.000
63.000	2	53.500	1		1.800	10	950
60.500	2	52.000	1		1.750	5	650
60.000	1	46.250	1		1.700	6	600
59.500	2	45.000	1		1.650	7	550
		42.500	1				

計	合計
(51,148.530)	(72,371,430)
51,148.53	72,271.43
8,466.77	14,401.35
59,615.30	86,672.78

(7)昭和四年度購入主要器具明細表 (100円以上)

品名	種呼	数量	支辨科目	要目	製造所名	代價	使用科別
自記湿度計	個	1	試験及研究費	中形、七日巻 模建証付	リヤール製 玉屋商店	120,000	研究科
石炭物碎器	"	1	"	ブラウン式 粉砕器 長さ58cm 幅36cm 高さ37cm	田中商事	261,525	"
自記高温計	"	1	"	摂氏0度より600度まで	北辰電気製作所	781,485	特別班 (研)
自記高温計	"	2	"	摂氏0度より600度まで ニヶ所を交互に記録するもの	"	1,848,040	"
高圧反応測定装置	"	1	"	気圧300 温度400°C	島津製作所	2,200,000	実
大型二次電池	"	1	"		兵衛重工業部	2,940,000	"
変圧器	"	1	"	一次電圧220V 二次空効電圧100,000V 二次電流(リアンパ) 連続20 油槽の寸法 幅150 41x64x51	島津製作所	931,000	研究科
微量分析器	"	1	"	Prege式微量分析装置にして炭素、水素、窒素、定量装置を具備するもの	理化学研究所	129,000	"
加圧釜	"	1	"	振盪式 内容1000cc 使用圧力300気圧	西製作所	591,600	"
燃焼試験器	"	1	"	エーコン重油噴射器	新鶴岡港部 工作部	2,061,090	実一班
温度傳導度測定装置	"	1	"	田所式にして併試体製造型及直流モーター白金加熱板所備完備	島津製作所	2,605,000	実特別班
自動水系純度指示器	"	1	"	自動的に水系純度60-80% 範囲内に於て記録せしむるもの	英國ケンブリッジ社製	1,590,400	"
全上	"	2	"	自動的に水系純度80-100% 範囲内に於て記録せしむるもの	"	3,180,800	"
瓦斯縮倍器 (高圧実験装置に合併)	"	1	"		異工廠	519,170	研究科
高熱複温器	"	1	"	摂氏0度より1600度まで 測定10度刻度	千野製作所	440,000	"

屈折計	個	1	試験及研究費	アッベ氏屈折計乙種 分析及食料品用のもの	獨逸、カール・ツァイス社製	513,240	研究科
原料處理装置	"	1	委託研究費	石炭處理能力一昼夜6トン 主たる設備機械 輸送機、揚炭機、乾燥筒、乾燥機、篩分機、等	大阪機械製作所	4,559,000	実特別班
撈揚機	"	1	"	能力及主要寸法 (撈揚能力六トン 撈揚高さ九米 走行軌條間の高さ九米 径間九米 主要装置 クラブ横行装置、撈揚装置、荷重制動装置、走行装置)	"	4,645,200	"
水素瓦斯圧搾機	"	1	"	型式 堅型 四気筒 四段 圧搾機 圧力400気圧 有効容量200立方米 回転数毎分315回転	神戶製鋼所	40,500,000	"
攪拌器回転装置	"	1	"	軸馬力90馬力 電動機 馬力100馬力 反應管内 石炭原料攪拌用	草袋工作所	554,000	"
配電裝置用配電盤	"	1	"	交流50サイクル用計器 用変圧器 {一次電圧3,300V {二次電圧220V	日立製作所	4,900,000	"
水圧唧筒機	"	1	"	主要機械 水圧唧筒及水力溜	島津製作所	12,137,850	"
圧力計	"	3	"	0-150 気圧 150-300 " 300-450 "	独逸 ショウハート・フーテンベルグ社製	522,000	"
石炭液化裝置	"	1	"	能力一昼夜石炭六トン を處理す	異工廠	120,000,000	"

(8) 昭和四年度各科別消耗品並藥品使用高調

科 別	消耗品	藥 品	合 計	記 事
工 務	工 務	1361 ^円 053	1361 ^円 053	
	印 刷	2316 ^円 297	8500	2324 ^円 797
研究科	研究作業	5716 ^円 572	3903 ^円 916	9620 ^円 488
	日常作業	2016 ^円 598	197 ^円 203	2213 ^円 801
実験科	一 班	5039 ^円 219	398 ^円 379	5437 ^円 598
	二 班	13557 ^円 025		13557 ^円 025
委託研究	特別班	1626 ^円 398	55 ^円 412	1681 ^円 810
委託研究	委託研究	188 ^円 753	83 ^円 574	272 ^円 327
分析工場	一 般	164 ^円 692	616 ^円 702	781 ^円 394
合 計		31,986 ^円 607	5,263 ^円 686	37,250 ^円 293

(9) 昭和四年度各科別消耗器具破損高調

科 別	金 額	記 事
研 究 科	862 ^円 140	購入價格に依る
實驗科 第一班	434 ^円 310	
實驗科 第二班	1,662 ^円 732	
合 計	2,959 ^円 182	

(10) 昭和四年度研究部廠内委託製作並修理費高調

(1) 製作費高調

工 場 別	工 費	材 料 費	附 屬 品	計
研 究 科	141 ^円 280	16 ^円 011	47 ^円 186	204 ^円 477
工 務	60 ^円 880	163 ^円 029	67 ^円 172	291 ^円 081

實驗科一班	857 ^円 820	874 ^円 027	369 ^円 335	2,101 ^円 182
實驗科二班	204 ^円 740	233 ^円 822	115 ^円 376	553 ^円 938
特 別 班	525 ^円 730	437 ^円 158	265 ^円 836	1,228 ^円 724
計	1,790 ^円 450	1,724 ^円 047	864 ^円 905	4,379 ^円 402

(四) 修理費高調

工 場 別	工 費	材 料 費	附 屬 費	計
研 究 科	62 ^円 700	277 ^円 620	102 ^円 095	442 ^円 415
實驗科一班	1845 ^円 780	719 ^円 254	761 ^円 524	3,326 ^円 558
實驗科二班	299 ^円 810	207 ^円 395	152 ^円 159	659 ^円 364
特 別 班	93 ^円 610	59 ^円 885	46 ^円 048	199 ^円 543
印 刷 所	44 ^円 240	1 ^円 951	13 ^円 857	60 ^円 048
計	2,346 ^円 140	1,266 ^円 105	1,075 ^円 683	4,687 ^円 928

(二) 雜修理費高調

工 場 別	工 費	材 料 費	附 屬 費	計
研 究 科	764 ^円 736	354 ^円 596	335 ^円 782	1,455 ^円 114
同上日常作業	207 ^円 880	166 ^円 562	112 ^円 325	486 ^円 767
工 務	136 ^円 450	73 ^円 079	62 ^円 852	272 ^円 381
實驗科一班	1,586 ^円 996	1,361 ^円 002	871 ^円 493	3,819 ^円 491
實驗科二班	190 ^円 249	55 ^円 904	58 ^円 984	305 ^円 137
特 別 班	228 ^円 970	68 ^円 313	89 ^円 181	386 ^円 464
印 刷 所	18 ^円 000	15 ^円 029	9 ^円 907	42 ^円 936
教 習 所	210 ^円 890	219 ^円 964	129 ^円 253	560 ^円 107
計	3,344 ^円 171	2,314 ^円 449	1,669 ^円 777	7,328 ^円 397
合 計	7,480 ^円 761	5,304 ^円 601	3,610 ^円 365	16,395 ^円 727

144
(二) 受託研究費に依る製作修理雑修費

	工費	材料費	附属費	計
製作	2,131 ^円 812	6,280 ^円 262	1359 ^円 878	9,771 ^円 952
器具修理	70 ^円 250	122 ^円 016	57 ^円 679	249 ^円 945
雑修理	422 ^円 740	93 ^円 494	154 ^円 868	671 ^円 102
計	2,624 ^円 802	6,495 ^円 772	1,572 ^円 425	10,692 ^円 999
総合計	10,105 ^円 563	11,800 ^円 373	5,182 ^円 790	27,088 ^円 726

(11) 昭和四年度(昭和四年四月一日)印刷所作業年報

要求元	件数	部数	梓数	页数	紙價
副官部	396	131,746	1,408	562,265	257 ^円 750
煉炭部	46	97,980	648	218,641	175 ^円 450
製油部	76	169,290	618	252,329	269 ^円 570
研究部	98	96,487	2,000	959,946	446 ^円 760
會計部	80	135,600	913	359,235	269 ^円 180
醫務部	20	15,575	115	46,665	20 ^円 640
修理部	33	60,370	246	97,694	70 ^円 650
合計	749	707,048	5,948	2,496,775	1,510 ^円 000
一ヶ月平均	62	58,920	495	208,064	125 ^円 830
人件費					2,566 ^円 310
動力及需品					771 ^円 710
一頁印刷費					00133

備考 人件費中雇員給ヲ含マズ

155
4. 昭和四年度(昭和四年四月)研究實驗報告類発行

(1) 研究報告

発行番號	題 目	発行年月	主任研究實驗者
第四卷 第一號	本邦産原油中の揮発油分の成分に関する研究	4-3	海軍技師秋田 穰
第二號	ピタソンの分解に就て	4-5	海軍技師 藤尾 誓
第三號	石炭低温乾溜研究(第一報)	4-6	海軍技師 山口昌三
第四號	潤滑油の研究(第一報) 環式炭化水素の合成に就て	4-12	囑託 景平一雄
第五號	タール酸の研究	"	工 手 中井利三郎
第六號	市販揮発油の成分及性状に就て	"	海軍技師 秋田 穰

(2) 實驗報告

第四卷 第一號	洗炭滓の利用に就て (第一報)洗炭滓より可燃性物質の回收に就て (第二報)洗炭滓の燃焼實驗	4-3	海軍技師 吉弘太作 海軍機少佐 宮下博雄
第二號	機関車炭火爐利用實驗報告	4-4	海軍機少佐 宮下博雄
第三號	ピッチの熔融点試験法に就て	4-7	海軍技師 小川 亨 囑託 住本誠治
第四號	ピセチレン、エチレン及ブンゼンの瓦斯分析法	4-9	海軍技師 藤尾 誓

(3) 研究雜報

第四卷 第一號	タービン油の安定度に就て	4-4	海軍技師 下田健市
------------	--------------	-----	-----------

第四卷 第二號	購入石炭及兎本炭分析成績表 (昭和三年度) 購入原油及重油試験成績表 (昭和三年度)	4-8	海軍燃料廠
" 第三號	水素の作用による石炭の 液化 (F. Bergius)	4-12	分析工 姉尾英孝訳

(4) 講 義

號外	化學熱力学	4-8	理学博士 堀場信吉
"	高温高压に於て使用する 鋼材に就て	4-5	海軍造大佐 吉川晴十

(5) 調査報告

第六號	水素の製造に就きて	4-12	技 生 藤本春季
-----	-----------	------	----------

(6) 石炭液化法報告

特 第一號	原料石炭装入に関する實驗 (其一)	4-1	海軍機少佐 楠田俊雄
" 第二號	原料石炭装入に関する實驗 (其二)	4-7	" "
" 第三號	原料混和物螺旋送入装置 に関する實驗報告	4-10	" "
" 第四號	原料混和物の圧縮状態に於 ける耐圧度に関する實驗報告	4-11	" "
" 第五號	石炭及タール各種混和物の低圧 瓦斯に依る連続流動實驗	4-7	" "

特 第六號	原料混和物噴射攪拌法 實驗報告	4-11	海軍機少佐 楠田俊雄
" 第七號	反應管加熱法に関する實驗	"	" "
" 第八號	石炭粒子の大きが液化に及 ぼす影響	4-12	海軍技師 小川 亨
" 第九號	混和タールの種類が石炭液 化に及ぼす影響 (其一)	"	" "
" 第十號	酸化鉄の有無が石炭液化に 及ぼす影響 (其一)	"	" "
" 第十一號	反應温度が石炭液化に及ぼ す影響 (其一)	5-2	" "
" 第十二號	タールの混和比が石炭液化 に及ぼす影響	"	" "
" 第十三號	反應温度が石炭液化に 及ぼす影響	"	" "
" 第十四號	反應圧力が石炭液化に及 ぼす影響 (其一)	"	" "
" 第十五號	混和タールの種類が石炭 液化に及ぼす影響 (其二)	5-3	" "

(7) 其の他

	フルコール及サイコール試験 成績	4-4	海軍技師 秋田 穰 下田健市
	「ロッキング」に関する實驗報告 テトラエチル鉛の影響に就て 附テトラエチル鉛及其の燃焼瓦斯の毒性	4-12	海軍技師 秋田 穰

18

	揮発油品位簡易判定法に 関する實驗報告	5-1	海軍技師 秋田 稔
	揮発油類の密閉貯蔵に 関する實驗報告	"	"
	旗印潤滑油實用實驗 成績報告	"	海軍技師 秋田 稔 嘱託 栗平一雄

5. 昭和四年度(皇四十四年四月一日)研究部配員
結果動調

(1) 研究部配員表(昭和四年十二月二十日調)

科 別	高等官	判任官	雇員 (技士)	職 工				計
				工手	職手	並職工	見習工	
部 長	1							
工務係	庶務工務	1(兼)	3		1	1	3	5
	倉庫		1			1		1
	印刷		1			6		6
調査科	1(兼)		3			3		3
研究科	第一班	2(兼通)	1			1	1	2
	第二班	3(兼通)	1(兼)		1	3	2	6
	第三班	3	2	1		4	1	6
	第四班	1(兼)	2(兼通)			13		13
	特別班	2(兼)	1		1	10	1	12
實驗	第一班	2(兼)	1(兼通)		4	9		13
	第二班	1	1		4	6		10

19

科	特別班	1	1	2		3	6		9
教習所				4			1		1
計	11(第1)	6(第2)	31		1	14	64	8	87

備考 本表以外に常時服務の氣務部員1、及氣務部員4
あり

(2) 判任官以上異動調

年月日	事 項	官 氏 名
4-4-1	兼補海軍燃料廠煉炭部長	海軍機関大佐 河瀬 真
"	見習職工養成所長ヲ命ス	同 河瀬 真
"	補海軍燃料廠研究部々員	海軍機関大尉 横田俊雄
"	研究部分權氣務實驗科分權ヲ命ス	同 横田俊雄
5-1	免兼職	海軍燃料廠研究部長 兼煉炭部長 海軍機関大佐 河瀬 真
"	臨時海軍燃料廠(徳山)防火関 係調査委員ヲ命ス	海軍機関少佐 別府良三
5-6	任海軍技師 敘高等官六等	嘱託 山口昌三
"	任海軍技師 敘高等官七等	海軍技手 藤尾 誓
"	任海軍技師 敘高等官七等	海軍技手 江口 孝
"	任海軍技師 敘高等官七等	嘱託 山本利夫
"	賜九級俸	海軍技師 山口昌三
"	賜十級俸	同 藤尾 誓
"	賜十一級俸	同 江口 孝
"	賜十一級俸	同 山本利夫
"	補員海軍之需部々員兼海軍燃料 廠研究部々員(五月十四日退職)	海軍燃料廠煉炭部員 兼研究部々員 海軍技師 下田健市

4-5-6	神海軍燃料廠研究部員	海軍技師	山口昌三
"	同上	同	藤尾 誓
"	同上	同	江口 孝
"	補佐在保海軍常部員(五月十四日退職)	同	山本利夫
"	敘從六位(昭和四年三月十五日)	正七位勲六等	並河 孝
"	研究科分擔ヲ命ス	海軍技師	山口昌三
"	同上	同	藤尾 誓
"	同上	同	江口 孝
"	石炭液化法研究委員會委員ヲ命ス	同	藤尾 誓
"	同上	同	江口 孝
"	野球部主任ニ指定ス	同	藤尾 誓
6-15	任海軍技手 給六級俸	囑託	高橋功夫
"	海軍燃料廠附ヲ命ス	海軍技手	高橋功夫
"	研究部附ヲ命ス	同	高橋功夫
"	研究科係員ヲ命ス	同	高橋功夫
7-1	見習職工教習所長ヲ命ス	海軍機関大尉	子爵河瀬 真
"	見習職工教習所教官ヲ命ス	海軍機関少佐	別府良三
"	同上	海軍機関大尉	並河 孝
"	見習職工教習所教員ヲ命ス	海軍技手	吉弘太作
7-3	任海軍技手 給七級俸	技 生	田島悦郎
"	海軍燃料廠附ヲ命ス	海軍技手	田島悦郎
"	研究部附ヲ命ス	同	田島悦郎
"	實驗科係員ヲ命ス	同	田島悦郎
7-6	兼任海軍技師 敘高等官六等	海軍教授正七位	小田茂雄
"	補海軍燃料廠研究部員	海軍技師	小田茂雄
"	研究科分擔ヲ命ス	同	小田茂雄

4-7-10	自今部内限委任官待遇トス 自今報酬年額千四百円ヲ給ス	海軍燃料廠ニ於ケル燃料 研究業務囑託	住本誠治
"	海軍燃料廠ニ於ケル潤滑油ニ関スル 研究業務ヲ囑託ス 但報酬年額千四百円ヲ給シ部内限 委任官待遇トス	技 生	景平一雄
"	研究部ニ於テ勤務スベシ	囑託	住本誠治
"	同上	同	景平一雄
"	研究科分擔ヲ命ス	同	住本誠治
"	同上	同	景平一雄
"	石炭液化法研究委員會委員ヲ命ス	同	住本誠治
"	同上	同	景平一雄
7-23	兼實驗科分擔ヲ命ス	同	景平一雄
8-6	通常物品(見習職工 教習所用品)取扱主任ヲ命ス	海軍機関少佐	別府良三
9-11	海軍燃料廠沿革誌編纂委員ヲ命ス	同	別府良三
"	同 委員附ヲ命ス	海軍技手	吉弘太作
9-13	見習職工教習所教育主任ヲ命ス	海軍機関少佐	別府良三
10-29	敘正六位(昭和四年六月一日)	從六位勲四等	別府良三
"	敘正七位(昭和四年六月一日)		山口昌三
"	敘從七位(昭和四年六月一日)		藤尾 誓
"	敘從七位(昭和四年六月一日)		江口 孝
11-6	臨時豫算運用ニ関スル調査委員ヲ命ス	海軍機関少佐	別府良三
"	同上	海軍機関大尉	並河 孝
11-30	任海軍機関中佐	海軍機関少佐 正六位勲四等	別府良三
"	任海軍機関少佐	海軍機関大尉 正六位勲六等	並河 孝

4-11-30	任海軍機關少佐	海軍機關大尉 楠田俊雄 正七位勲六等
"	補海軍工廠附屬海軍燃料 廠研究部員(十二月十四日着任)	海軍機關少佐 嘉納吉彦
12-9	敘正四位(昭和四年十一月十五日)	從四位勲三等子爵 河瀬 眞
12-13	貴官ハ至リテ事務廳ニ於テ服務シ 航空機用燃料並潤滑油ノ研究ニ 従事スヘシ	海軍機關少佐 嘉納吉彦
12-23	研究科分擔ヲ命ス	海軍機關少佐 嘉納吉彦
5-1-16	敘從六位(昭和五年一月十六日)	正七位勲六等 楠田俊雄
1-20	敘勲三等授瑞寶章(昭和五年一月二十日)	正六位勲四等 別府良三
2-10	給三級俸	海軍技師 齋村 浩
"	死去	同 齋村 浩
2-14	石炭液化法研究委員會委員ヲ命ス	海軍機關少佐 嘉納吉彦
2-15	歐米各國へ出張ヲ命ス(三月十一日徳山邸) (シバリア經由)	海軍技師 秋田 穰
2-27	兼實驗科分擔(第一班主任)ヲ命ス	研究科分擔兼研究部 工務主任海軍機關中佐 別府良三
"	研究科分擔(第二班)ヲ命ス	實驗科分擔兼研究部 分擔 海軍技師 秋田 穰
3-31	給三級俸	海軍技師 吉弘太作
"	賜四級俸	海軍技師 小川 亨
"	賜七級俸	同 下田健市

(3) 雇員以下異動調

學校別	雇 傭 入			解 雇 傭		
	雇員	職工	記 事	雇員	職工	記 事
帝國大學	2	2	雇員は職工より 転雇			
高等工業 (明電ヲ含ム)	3	3				
工業學校		4			6	内一名死亡 一名他部へ転出
中學校					1	
其の他		2			4	内一名他部へ転出
見習工		3			1	
計	5	14			12	

年月日	事 項	職 氏 名
4-4-1	分析工ニ試傭入 日給二円四十錢	伊藤 駿一
"	製圖工ニ試傭入 日給二円四十錢	中村 正
2	分析工ニ傭入 日給三円七十錢	藤本 春季
"	分析工工手ヲ命ス	分析工 藤本 春季
"	分析工ニ傭入 日給三円七十錢	磯谷 延治
"	分析工工手ヲ命ス	分析工 磯谷 延治
8	分析工見習職工ニ試傭入 日給五十錢	石田 入一
"	同 上	村重 政治
"	同 上	橋本 三郎
"	見習職工成業ニ付分析工ニ傭替 日給一円二十錢	分析工見習 林 茂人
"	同 上	" 佐々木和吉
"	同 上	" 河村 幸一
19	化學研究, 爲四月二十三日ヨリ	

向フ三箇年間京都帝國大學理學部へ派遣		
4-4-19	本備入 分析手ヲ命ス	分析工 野村権一
"	"	分析工 伊藤駿一
"	"	" 中村 正
"	"	分析工現習 村重政治
"	"	" 石田入一
"	"	" 橋本三郎
5-4	研究部ニ於ケル氣象觀測係ヲ命ス	分析手 中村正美
14	工務規則第二十八條第十號該當ニ依リ解僱	分析手 松尾直士
21	實驗手ヲ命ス	實驗工 宮内喜平
"	"	" 浅田伊平
25	工務規則第二十八條第十三號該當ニ依リ解僱 (警約違反)	分析工現習 井上義雄
6-3	授生ヲ命シ月給金九拾圓ヲ給ス	分析工工手 藤本春季
"	" 月給金八拾五圓ヲ給ス	" 磯谷延治
"	" 月給金六拾貳圓五十錢ヲ給ス	分析手 伊藤駿一
"	" 月給金六拾貳圓五十錢ヲ給ス	" 中村 正
"	" 月給金六拾圓ヲ給ス	" 坂本貞彦
"	研究部附ヲ命ス	授生 藤本春季
"	"	" 磯谷延治
"	"	" 伊藤駿一
"	"	" 中村 正
"	"	" 坂本貞彦
7-1	見習職工教習所教員ヲ命ス	授生 福后宋輔

4-7-6	分析工工手ヲ命ス	分析手 河野貞三
8	七月七日病死ニ付除籍	分析工工手 河野貞三
9	工務規則第二十八條第十號該當ニ依リ解僱	分析手 原田 巖
16	授生ヲ命シ月給金四十六圓二十五錢ヲ給ス	固田 榮
"	" 月給金四十五圓ヲ給ス	門田秀造
"	研究部附ヲ命ス	授生 固田 榮
"	"	" 門田秀造
"	見習職工教習所教員ヲ命ス	" 固田 榮
"	"	" 門田秀造
31	自七月三十一日京都帝國大學講習ニ参加	分析手 藤井軍治
8-1	實驗手ヲ命ス	實驗工 田村高輔
"	"	" 桑原武夫
12	依頼解僱	分析工 水津鷹雄
13	煉炭部へ僱替	實驗工 江村信一
28	依頼解僱	" 坂井 猛
9-4	依頼解僱	分析工 田中邦人
25	實驗手ヲ命ス	實驗工 新庄盛一
"	"	" 多田融麟
"	"	" 武居伊作
"	"	" 平本泰四郎
"	"	" 藤井宗一
11-1	授生ヲ命シ月給金四拾貳圓五十錢ヲ給ス	石田一實
"	研究部附ヲ命ス	授生 石田一實
"	見習職工教習所教員ヲ命ス	" 石田一實

26

4-11-21 實驗手ヲ命ス
 12-1 青年職工訓練指導員ヲ命ス
 11 試傭入
 16 本傭入
 24 本傭入 分析手ヲ命ス
 5-1-8 徴兵トシテ入官ノ為依願解傭
 2-21 煤炭部ハ傭替
 3-1 煤炭部附ヲ命ス
 " 研究部附ヲ命ス
 10 試傭入 日給一円五十銭
 " " "
 " " "
 21 本傭入
 " "
 " "
 26 試傭入 日給一円六十銭
 31 依願解傭

実験工 藤井正昭
 記録工 原 寅市
 土井 茂
 船本 祐
 分析工 土井 茂
 刷版工 松本豊作
 実験工 藤田照義
 研究部附技生 富士山雅壽
 煤炭部附技生 井筒淳一
 磯濱 松一
 波多野源太郎
 山時克治
 分析工 磯濱 松一
 " 波多野源太郎
 " 山時克治
 石田佐一
 分析工 船本 祐

27

6. 研究部雇員以下出身学校並

海陸軍出身者調 (昭和五年三月三十一日調)

科 別	帝國大學	高等工業	工業學校	中等學校	中等學校 出身者	海軍士 出身	陸軍士 出身	見習職工 出身
工務係	廢務工務			1	1	2	2	
	倉庫			1				
	印刷							
調査科	第一班	2		8				3
	第二班		1	4				2
	第三班	1	1	3				2
	第四班			9	1			3
	特別班			1		1		2
	第一班			1		10		1
實驗科	第二班							
	特別班		2	3		3		1
	教習所			4				
	計	3	4	34	3	16	2	14

7. 昭和四年度(皇四年四月一日至皇五年三月三十一日)研究部職工勤務關係調

(1) 遷刻者調

月 別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	2	4	3	3	0	4	0	2	1	3	0	1	23

(2) 公務員傷者調

月 別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	0	2	5	8	15	19	0	0	1	0	19	8	77

28

(3) 病氣休業者調

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	35	67	65	40	63	48	0	5	22	0	0	39	384

(4) 事故休業者調

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	44	34	55	25	59	58	32	36	34	60	55	52	544

昭和四年度(皇四十四年四月一日)研究部
講演誌雜誌會調

(1) 部内講演

回数	施行年月日	題目	講演者
27	4-4-11	洗炭水を循環使用の可否に就て	技 生 瀬口 太
	"	昭和二年度現業員健康診断の成績に就て	軍醫大尉 三宅正一
	"	工業に関する知見	機関大佐 梶本金平
28	4-5-23	メタン ¹ の分解に就て	海軍技師 藤尾 誓
	"	石炭の水素添加に就て(第一報)	海軍技師 小川 亨
29	4-7-18	原料炭の水分と煉炭の凝集力の関係に就て	技 生 井筒淳一
	"	石炭の分析と試料の調製	嘱 託 住本誠治
30	4-8-27	メタール ² の熱分解	中井利三郎
	"	石炭ピッチ ³ 揮発性成分の研究	柴田昇治
	"	メタールの皮膚病学的研究に就て	醫學博士 松本信一

29

31	4-9-26	ピトロレン ⁴ の研究	機関大尉 横田俊雄
	"	アスファルテン ⁵ の研究	海軍技師 山口昌三
32	4-10-24	石炭の荷役 ⁶ に就て	機関少佐 時任茂樹
	"	石炭の水素添加に就て	海軍技師 小川 亨
33	4-11-14	オハ ⁷ 原油の製油に就て	同 工藤幸介
	"	石炭の低温乾燥 ⁸ に就て	同 山口昌三
34	4-12-19	ピッチ ⁹ の研究	嘱 託 住本誠治
	"	石炭液化法 ¹⁰ に就て	機関少佐 横田俊雄
35	5-1-24	水素の製造に就て	技 生 藤本春季
	"	メタノール ¹¹ の合成に就て	海軍技師 江口 孝
36	5-2-28	燃焼の化学に就て	技 生 磯谷延治
	"	混和筒内に於ける加熱時間の影響	海軍技師 古原富夫

(2) 部外講演

場 所	年月日	題 目	講演者
徳山町役場 工業化学会九州 支部春季例会	4-4-29	ピッチ ¹² の皮膚に対する刺激性に就て	嘱 託 住本誠治
"	"	酒性の毒性に就て	技 師 江口 孝
廣島市 燃料協会講演会	4-5-5	国防と燃料	機関大佐 河瀬 真
東京帝国大学 日本化学會	4-7-13	高温高压に於ける芳香族炭化水素の接合的還元 ¹³ に就て	嘱 託 景平一雄
"	"	メタン ¹⁴ の分解に就て	技 師 藤尾 誓
"	4-10-12	潤滑油の基礎的研究(第二報) ピトロレン ¹⁵ の研究	機関大尉 横田俊雄

(3) 雜誌會

回数	年月日	題 目	講 演 者
19	4-10-21	褐炭「コ-ライト」の自然の原因と 其の防止法	分析工 國居 報一
		" 石炭「タール」中の「マロン」の形 成に就きて	技 手 高橋 功夫
		" "Experiments in Viscosity"	囑 託 景平 一雄
20	4-11-4	石炭中の炭素測定法	分析工 安弘 文吉
		" Some Properties of Framex Combustion.	囑 託 中西 阜
		" 高圧水素中に於ける芳香族化合物 の熱分解	機関大尉 橋田 俊雄
21	4-11-18	瀝青物質の比重測定法	分析工 光井 未男
		" 石炭及類似物質の水分測定法	技 生 井筒 淳一
		" 正「パラフィン」の熱分解	技 師 藤尾 誓
22	4-12-2	所謂「Nitro Fumic Acid」に就きて	分析手 藤井 厚治
		" 銅に就きて	技 手 田島 悦郎
		" 「Cracking」の機構に就きて	技 師 小川 亨
23	4-12-16	燈油中の不飽和及芳香族炭化 水素の定量法	分析工 宮崎 正雄
		" 自動車用揮発油の新規格 (S. content を 0.1% 以下に 33 を 主として)	技 手 小池 清澄
		" 支那の石炭に就きて	機関中佐 別府 良三
24	5-1-27	迅速硫黄測定法	分析工 山本 岩雄
		" an Analysis of Peat Profile	技 生 富士 雅壽
		" 「メタノール」合成に於ける一考察	技 師 江口 孝

25	5-2-3	Simultaneous Cracking and Hydro- genation	手 析 手 棟 近 葉
		" Gasoline の 収 得 量 と four point methods.	技 手 小 林 進
		" 低 温 乾 溜 工 業 の 進 展	機関少佐 並 河 孝
26	5-2-17	acetic の 屈 折 計 に 就 きて	分析工 林 茂 人
		" 水 性 瓦 斯 増 炭 用 と し て Creosote の 利 用 に 就 きて	技 生 藤 本 春 季
		" Ipatiev - 派 の 高 温 高 圧 熱 分 解	技 師 山 口 昌 三
27	5-3-10	紫 外 線 の 作 用 に 就 いて	技 生 福 谷 未 輔
		" 石 炭 の 熱 量 計 算 式 に 就 いて	技 手 吉 弘 太 作
		" 有 機 化 合 研 究 對 照 と し て の 石 炭 Prt. Humic acid の 構 造 推 論	囑 託 住 本 誠 治

9. 昭和四年度(皇四年四月一日)

研究部主要行事調

年 月 日	記 事
4-4-4	河瀬部長より豫算運用及物品使用に就き部員へ 注意あり 四年度実行予算に関する會議開催(午前+時應接室) 機関少佐機関大尉研究部々員一名當分の間臨時 増置(昭和四年四月一日法令第九十九號) 研究部技師定員「二」を「五」に改めらる(昭和四年四月一日 法令第九十四號) 6 景平技生京都帝國大學に於て研究に従事中の處 帰廠

- 4-4-15 午後三時より特命機関巡視順路により廠長巡視
 16 部内大掃除施行 (特命機関準備)
 17 午後一時より特命機関使附山中機関大佐一行の
 機関施行
 18 午前九時より特命機関使博恭王殿下の巡視あり
 (雨天巡視順路)
 22 午前昭和五年度作業梗概會議開催 (應接室)
 27 雇員職工定期体重秤量検査施行
 4-5-14 午後三時より於圖書室 撫順内熱式炉による頁
 岩油試験成績に関する會議開催
 6-4 午後一時半より於圖書室 梶本製油部長の工業
 知識 (第四) の講演開催
 6-13 潤滑油安定度試験法講習開催 参加者右工廠、
 軍需部、
 14 全上講習終了
 17 午後二時三十分より煉炭部職工食市場に於て船
 本第二五七〇号による活動写真觀覽
 潤滑油安定度試験法部外技術者講習開催十八日
 終了
 18 河瀬部長、研究部長、實驗部長打合會議列席の
 為出張 六月三十日 帰着
 7-30 講習参加の為高橋技手 藤井 (重) 分析手 京都帝國大
 学へ派遣 (七月三十日帰着 八月九日帰着)
 8-12 重油槽泡沫消火實驗施行十三日終了
 13 於圖書室泡沫消火裝置實驗に関する研究會開催
 23 第五回石炭液化法研究委員會を第三會議室に於

- 午後一時より開催
 9-2 霞ヶ浦航空隊第十六期整備學生實習の^為來廠九月
 7 眞空蒸溜製潤滑油會議を於圖書室午前十時開催
 8 眞空蒸溜製外部礦油會議列席の為 河瀬部長、
 別府部員、景平囑託、廣海軍工廠へ出張九日帰着
 13 撫順内熱式炉に依る頁岩油會議を於圖書室午前十
 時より開催
 10-3 於第二會議室ヒツチ皮膚炎に関する研究會開催
 8 秋季實驗部長、研究部長打合會議を於圖書室開
 催
 9 河瀬部長、實驗部長、研究部長打合會議列席の為
 吳工廠へ出張十月十日帰着
 21 安全週間實施 十月二十六日終了
 31 陸海軍油類規格協定に関する會議を於廠長應接
 室午後一時より開催
 11-16 全上 午前十一時三十分より開催
 21 午後三時より於煉炭部職工食市場協調會理事官
 澤說成氏の講演開催
 12-10 陸海軍油類規格協定 (案) 會議を於廠長應接室午
 後零時半より開催
 18 午後三時より於圖書室 安藤教授の改米燃料界
 事情に就て講演開催
 27 部内一般大掃除
 28 御用納 午後零時半退廳
 5-1-4 御用始 午前十時十五分 廠長訓示 同十一時
 十五分退廳

- 5-1-9 午後零時半より於圖書室河瀬部長年頭訓示
- 14 第二會議室に於て午前十一時より細石機関少佐の頭米觀察出張報告あり
- 19 第二回石炭分析法協議會出席の島造幣局へ出張
(小川、山口部員及佐々木偏託)
- 28 午後一時より於煉炭部職工食事場 活動写真觀覽
- 2-7 午前十一時二十分より研究部職工食事場に於て研究部長の衆議院議員選舉に關する注意事項、經費節約、災害防止に關し訓示あり
- 12 第二會議室に於て午後一時より頁岩油會議及石炭液化法研究會議開催
- 14 部長室に於て午後一時より石炭液化法研究特別委員會予備會議開催
- 21 飯田第二艦隊司令官外幕僚見學の爲來廠
25 第一回石炭液化法特別調查委員會を於部長室午後三時十分
- 3-3 清川舞鶴要港部司令官見學の爲來廠
14 第二回石炭液化法特別調查委員會を於部長室午前十一時三十分
- 15 投原第一航空戰隊司令官外幕僚見學の爲來廠
- 19 山下軍需局長來廠
- 22 仙石滿鉄總裁、同秘書、水谷中將見學の爲來廠

(終)